

① 必要なものを準備しよう

種や苗、土プランターなど、必要なものは園芸店やホームセンターなどで手に入ります。



② 種まき 4月~5月 苗の植え付け 5月頃

1 種から苗をつくる

種から植えるときは、少し大きくなるまで、ポットで育てた方が安心です。

種を水に浸す

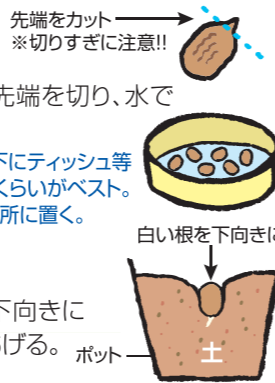
発芽を早めるために種のとがった先端を切り、水でヒタヒタにした小皿等に入れます。

※ポイント/①保水性を高めるため、種の下にティッシュ等を敷き水に浸す。種が一部水からでているくらいがベスト。②適温(25~30℃)を保つ。③種を暗い場所に置く。

種をポットに植える

種から白い根が出たら、白い根を下向きにして植え、土を1cmほど被せ、水をあげる。ポット

※ポイント/①適温(25~30℃)を保つ。



2 苗の植えつけ

プランターに移す

本葉が3~5枚になったら、根元の土をくずさないようにポットからそっと出して、間隔をあけてプランターに植え替えます。植え付けたあとは、水をたっぷりあげてください。

プランターの底には、鉢底石や軽石などを敷くと、水はけをよくし、根ぐされを防げます。根が喜ぶ土の深さは30cmほど。土をほぐしながらふんわりとなるように入れましょう。



緑のカーテンづくりに利用できる主な植物

ゴーヤ(ニガウリ)

種まき:4月~5月
苗の植え付け:5月~6月
収穫:7月~9月

アサガオ

種まき:5月~6月
苗の植え付け:6月
開花:8月~9月

ふうせんかずら

種まき:5月~6月
開花:7月~9月

きゅうり

種まき:4月~5月
苗の植え付け:5月~7月
収穫:7月~9月

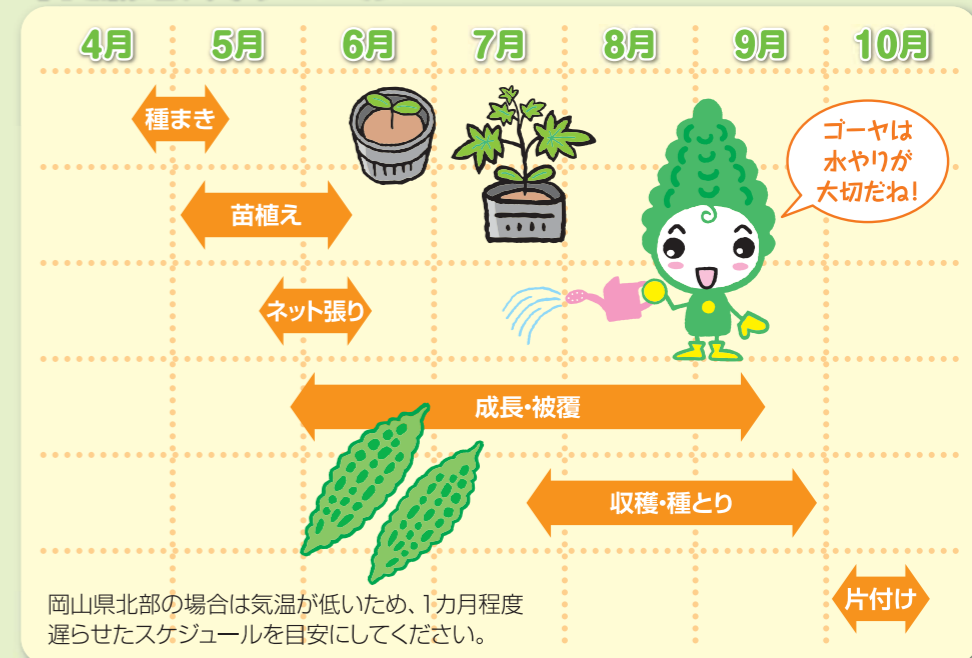
へちま

種まき:4月~5月
収穫:9月~11月

パッションフルーツ

苗の植え付け:4月~5月
開花:6月~9月
収穫:8月~11月

年間栽培スケジュール (岡山県南部の場合)



③ 水やりは段階的に

苗が小さいうちは、水分を多くあげすぎないこと。大きく育ってきたら、朝夕2回、たっぷり。プランターの底から流れ出るぐらいに水をあげましょう。

植え付け後、1カ月くらい

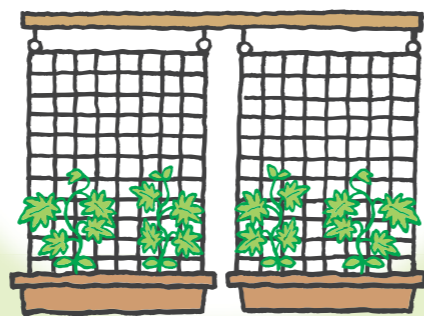
地中にしっかりと根を張る時期なので、土の表面が乾いたら、たっぷり水をあげるようにします。プランターの場合は、底から水がしみ出るまであげます。

生長期

7月に入り、気温が高くなってきたら、1日1回、朝か夕方たっぷりの水をあげます。猛暑時には、朝・夕2回の水やりが必要になることもあります。

④ ネット張り 5月~6月頃

つるが伸びる前にネットを張ります。ネットの上部は、階上のベランダの柵や手すり、軒先につけたフックなどにしっかり結びつけましょう。下部は、地面の場合は杭を打つか、そうでない場合はコンクリートブロックやプランターを重しに使用して、しっかり固定します。ネットは、風でゆれないようにピンと張るのが良好な生育のポイントです。



ネットは10cmの網目がおすすめ。

⑤ つるの誘引 6月~8月

緑のカーテンでは、特に生長期(最初の2カ月位)に、つるがネットにうまくからまって、つると葉がネット全体をおおうように、つるを誘引(伸びてほしい方向に導くこと)する必要があります。

つると葉がネット全体を覆うように、ひもや園芸用のテープ結束タイで、ゆるく結びつけ、横へ横へ導きます。

つるとネットをからめるときは、ひもを8の字にしてつるとネットを結びます。結び目はゆったりと余裕を持たせておくと、つるがネットにすれて傷つきません。



⑥ 摘心 6月~8月

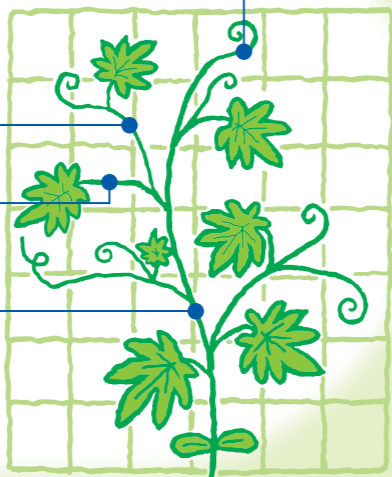
つるの先端が、つくろうとしている緑のカーテンの上端まできたら、親づるの先を2~3cm切りましょう(摘心)。そうすることで、子づる、孫づるが元気に成長し、ネット全体をおおいきなります。子づる、孫づるも必要に応じて誘引します。

親づるの先を切ってあげることで、子づる、孫づるがぐんぐん伸びる

子づるからのびているのが孫づる

親づるからのびているので子づる

一番太い中心の茎が親づる



⑦ 追肥 7月~8月

つるが伸び、大きく育ってくると、多くの養分が必要となります。7月中旬~下旬の雌花の一番花が咲いた頃を目安に、根元を避けて追肥します。その後も、実がなり始めたころから、3~4週間に1回ぐらい、定期的に追肥しましょう。液体肥料の場合は、即効性はありますが効果が続かないため、1週間に1回ぐらい追肥してください。



※肥料は販売店でよく相談し、購入してください。

⑧ 収穫 8月~9月

ゴーヤは、種まきをしてから約2カ月で収穫できるようになります。熟して黄色くなる前に収穫しましょう。結実してから2~3週間ぐらいが食べごろです。



下ごしらえ

調理する前に、たて半分に切って、スプーンなどでワタと種を取り除きます。苦みが気になる場合は、薄切りして水にさらす、塩でもむ、軽く湯通しするなどを行えば、苦みが和らぎます。

保存

たくさん採れてすぐに食べきれない場合は、スライスにした状態で冷凍したり、乾燥処理しておけば、長期保存ができます。

⑨ 次年度に向けての準備

種とり 7月~9月

実の全体が黄色くなってきたら種をとみましょう。種をとるときは、よく熟した実の種のまわりの赤いゼリー状のものを洗い流し、風通しのよい場所で陰干しし、乾燥させたら、密閉容器に入れて、冷蔵庫などで保管します。

片付け

10月になり涼しくなってきたら、葉も黄色くなってきました。ネットにまきついている枯れ葉やつるをはずしましょう。ネットやプランターは翌年にもまた使えます。保管してとっておきましょう。

土

前の年に植物を育てていた土に同じ科のものを植えると、連作障害が出ることがありますので注意しましょう。